



わたしは「団塊の世代」で、男女平等の戦後教育を受けています。どちらかといえば家庭内では妻の方が力があります。一方、我々の両親の世代は戦前の儒教色の強い夫唱婦隨の教育を受けました。女性の平均寿命の高さもあり、奥さんが在宅で献身的にご主人のお世話をするのが一般的です。

診察では「先生、この人、病気で動かれへんに頑固さは変わりません」と、奥さんがご主人の介護に少し疲れたという表情で訴えます。「無理をしないように。あなたが倒れたら大変やで。子どもさんにも助けてもらったら。だけど、ご主人が生きていることが大切なんですよ」と、わた

介護は無理せずサービス活用

しは慰めにも励ましにもならない言葉で話を継ぎます。ここに高齢者の老老介護の現状があります。そして「介護保険のサービスを受けたらいかがですか？ 意見書を書きましょう」と、話を続けま

す。介護保険は医師の意見書を基に介護度が決定されます。介護度に応じて、送迎がついて半日間施設で介護サービスが受けられるアイサービスや、1週間程度施設で宿泊するショートステイなど家庭外、さらには入浴や家事の援助など家庭内でのサービスなど、必要に応じて多彩なメニューを利用することが可能です。

介護する方にも休息やリフレッシュが必要です。ぜひ、かかりつけの先生や市役所の老人福祉の係の方と相談してください。

（公立南丹病院長 梶田芳弘）